

# 令和7年度第1回刈谷市青少年問題協議会議事録

日 時	令和7年7月1日（火） 午後2時～午後3時26分
場 所	刈谷市役所 5階 502会議室
出席者	委員 14名 事務局 5名
欠席者	委員 3名 オブザーバー 1名
1 議題	<p>(1) 令和6年度刈谷市青少年関係事業報告について 事務局から説明を行う。</p> <p>【主な質疑等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度の児童生徒愛護の集いの講演会の内容とそれを聞いた方の感想を紹介してほしい。 →予防医療研究所の磯村毅氏に「どう守る？デジタルネイティブの子どもの脳 - 小さい時が勝負」というテーマで、講演いただいた。大きなテーマとして、子どもたちにはネットリテラシーが必要ということをおっしゃっていた。ネット上の情報には危険や嘘も多く含まれていたり、スマホを使う時間が長いと成績が下がった研究結果もあるため、大人がスマホやネットから子どもを守る事が大切だというようなお話であった。タブレットやスマホの活用に慣れることを進めていく一方で、そういった研究結果もあると知り、そのさじ加減を考えさせられるというような感想をたくさんいただいた。</li> <li>・ハツラツかりやっ子育成支援事業について、地域学校協働活動の中で、この事業を活用できたらよいと思うが、申込みには問題はないか。また、活用できるという情報は周知されているか。 →申込みに問題はない。地域学校協働活動の刈谷市全体を統括するコーディネーターが、各学校の学校運営協議会やコーディネーターに、制度の周知を行っている。</li> <li>・自転車通学について、自転車も歩道を通らないと危ない箇所では、生徒が自転車で歩道を通ることを配慮いただけないか、警察の方とも話をしてほしい。</li> <li>・通学路の安全確保について、法令遵守をしながら安全に通学するにはどうしたらよいか、事務局としても取り組みをしていただければと思う。小学生にも自転車の乗り方指導が必要であると思う。</li> <li>・中高生の居場所づくり事業に外国籍や日本語が難しい子どもが参加している実態はあるのか。 →中高生の居場所づくり事業では、現在、外国籍の子が利用しているという話は聞いてない。他には、国際プラザで外国にルーツのある子どもたちに対しての語学の学習の支援をしている。また、引きこもりやニート等の相談をしているNPO法人が主になり、中央図書館で週2回、外国にルーツのある子やそれ以外にも学校に行けなかったり授業に遅れてしまった若者を対象にした学習支援をしている。勉強するだけでなく、お喋りしたり、相談の場所にもなっていると聞いている。</li> <li>・刈谷市における、外国にルーツのある青少年に対する支援やニーズについては、まだあまり議論になっていないが、この会議においても大事な課題の一つだと思う。高浜市は、愛知県内の中で、外国にルーツのある住民の割合が最も高い町であるため、多文化共生のセンターを作り、支援をしている。おそらく刈谷市でも外国にルーツのある人が増えている地域があると聞いているので、そういった青少年のニーズは私たちも関心を持ち考えていきたいと思う。また、</li> </ul>

次回の会議で刈谷市に外国ルーツの子どもたちがどれくらいいて、どのような取り組みがあるのかご報告いただければと思う。

- (2) 令和7年度刈谷市青少年関係事業計画について  
事務局から説明を行う。

**【主な質疑等】**

- ・夢が広がる未来応援事業について、今年度は、中学3年生を対象とするということによいか。1、2年生については各学校でオンライン視聴することができるのか。  
→この事業は、自分の将来を見据える中で中学生のうちにもいろいろな選択肢を考えてほしい、いろいろなお話を聞いて自分の夢を広げてもらいたいという思いで始めた事業である。メインになるのは中学3年生であるが、人数の枠に余裕があれば、1、2年生でも参加することができる。会場のキャパシティの問題で、会場に来られない生徒に関しては学校で見られるようにしたいという思いで、昨年度、一昨年度についてはリモートで学校のテレビで見られるように進めた。今年度は、相手方の権利関係等の問題でオンライン視聴は難しいという回答を現在はいいただいている。しかし、みんながいるところでは参加できなくても、学校の教室でなら参加できるという子も参加してほしいという事業の目的があるので、引き続き交渉を続けていきたいと思う。

- (3) 刈谷市児童生徒愛護会の実態調査結果について  
葉山副会長から説明を行う。

**【主な質疑等】**

- ・実態調査7ページの間7で、高校生では、お金を使いすぎてしまった人の中の5割以上が1万円以上使っている。これは、SNSの影響だけではないリスクが隠れている気がする。そういった事例研究はしているのか。  
→そこまではまだやっていないが、調査研究部会の中では検討している。
- ・中学生の子どもを持つ保護者の立場になると、SNS等の安全な利用認識に差があると感じている。スマホをルールを決めて使っている家庭とほったらかしの家庭がある。また、お金に関しては、ゲーム機に親のクレジットカードの情報を入れた状態のままになっており、子どもが課金を繰り返し、気づいたら高額になっていたという話をよく聞く。それは、親の認識が甘いと思った。  
→学校では、ネットモラル教室を保護者も一緒に聞けるように入学説明会の中で開催しているが、トラブルに巻き込まれないような注意喚起が中心で、クレジットカードの適切な利用といった話までできてない現状であるので、今後はそういった話もしていきたい。
- ・保護者自身のSNSの利用時間も気になる。気づかぬうちにSNSで時間を使いすぎてしまい、本当に大事な子どもとの時間や他にやるべきことの時間がとれないことが結構ある気がする。SNSやネット環境は、いかに引き込むか、時間を使わせるかという工夫に長けているので、知らぬうちに時間を使ってしまっているのは子どもだけでなく、保護者も心配である。そのため、今度は保護者の現状についても調査してみてもよいかもしれない。
- ・実態調査のデータをもとに教材化はしているか。  
→道徳の時間や生徒会活動で議論のテーマにしている。のぞましい家庭教育の2、3月号では、調査結果をまとめて各家庭に配付している。また、先日訪問した学校では、桃太郎の世界にSNSがあったらというテーマで授業をしていた。SNSでは自分が発信した情報が間違った情報になって広まる危険性があるため、SNSで情報発信するときは、言葉が足りているか、変な意味に解釈されないか等使い方に気を付ける必要があるという内容であった。
- ・今の子どもたちは小学校に入る前からタブレットに慣れているため、幼児から小学生にかけてのICTとの付き合い方についても取り組むとよいと思う。保護者

としては、子どもがおとなしくしてくれるのでスマホやタブレットを使うが、それが子どもたちの発達にどういう影響があるのか、もう少し早い段階から学ぶ機会があってもいいと思う。オーストラリアでは法律で規制していく動きもでている。日本はそこまでではないが、地域や自分の家庭で望ましい環境づくりについて、親の学習の機会が必要な気がする。乳幼児や高校生の親にも一緒に考えてほしい。

## 2 その他

(1) 特殊詐欺の実態と少年の加担防止対策等について事務局から説明を行う。

### 【主な意見等】

- ・お金の困って詐欺に加担してしまうというあたりが、実態調査にあったようにお金をたくさん使ってしまう高校生がいることを考えると、容易にこういったワードにはまってしまう恐れがあると思った。

【閉会】 午後 3 時 2 6 分